

平成30年市議会3月定例会 市長施政方針説明(要旨)

企画政策課

2月20日から開かれている市議会3月定例会の初日に行われた渡部尚市長の施政方針説明の要旨です。全文は市ホームページの「市長のページ」から、動画は「議会中継」でご覧ください。

なお、この施政方針説明については、東村山市第4次総合計画平成30年度実施計画の分野別計画の各基本目標ごとに掲載しています。

はじめに

佐川修様ご逝去
多磨全生園入所者自治会の前会長である佐川修さんが、1月24日、86歳でご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

佐川さんは、現在の「全国ハンセン病療養所入所者協議会」の前身である「全国国立らい療養所患者協議会本部」で約10年間、全国の入所者および回復者の皆さんの名誉回復のため、さまざまな運動に参加して活躍されました。平成18年2月から29年1月までは、多磨全生園入所者自治会長として、「人権の森」構想推進に向けた活動を牽引し、中でも、ハンセン病問題基本法制定により可能となった園内への保育園誘致を進め、平成24年には念願であった「花さき保育園」の開園に多大なご尽力をいただきました。

佐川さんのご意志を継ぎ、ハンセン病問題の真の解決と人権の森構想の実現に全力を尽くします。

消防団の表彰

東村山市消防団出初式で、東村山市消防団の献身的な努

力による功績として東京都消防協会より優良表彰を、また、青葉町で発生した住宅火災の延焼防止と支援活動に多大なる貢献をしたとして、第一分団および第二分団が東京消防庁消防総監より消防活動功労表彰を受賞されました。

このことは市にとっても大きな名誉であり、小島消防団長をはじめ受賞者の皆さんにお祝い申し上げ、日頃の消防団活動に敬意と感謝を申し上げます。

働き方改革

平成29年度は「イクメイヤー・ケアメイヤー宣言」をはじめ、庁内の職層別会議など、国の進める「一億総活躍社会」の実現に向けて「働き方改革」をスタートさせ、職員の働き方や庁舎環境の整備についても見直しを直しました。

庁舎の狭あいや、情報化への対応など多くの課題がありますが、「東村山創生」を支える職員の仕事の生産性や効率性の向上とワークライフバランスの好循環を生みだせるよう、公民連携による新たな手法等も取り入れながら、効果的な行政運営を目指します。

平成30年度の組織・定数

平成27年を「東村山創生元年」と位置付け、地域を盛り上げる取り組みを実施してきました。元気になる好循環をさらに加速させるため、新部署「地域創生部」を創設し、経営政策部の総合戦略推進担当主幹と都市マーケティング課をシテイスールズ課として名称を改め、市民部の産業振興課とともに新部に移管し、地域活性化策の強化・拡充を図

ります。また、教育部の市民スポーツ課を新部へ移管し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会担当主幹を創設し、当競技大会に向けた地域のスポーツ振興と中国ホストタウンなどの取り組みを一体的に進め「東村山創生」につなげます。

この結果、今年度の10部57課3主幹体制から、11部56課2主幹体制となり、職員数は引き続き790名とする予定です。

基本目標1「みんなで支え助け合う、健やかにいきいきと暮らせるまち」

公立保育所の民間移管

第六保育園は、市立久米川小学校の校庭の一角に仮設園舎を設置し、平成30年1月4日より仮設園舎での保育を開始しました。また、1月20日・27日には、第二・第六保育園それぞれの園の保護者・事業者・市の三者による具体的な協議がスタートしました。平成30年度は民間移管に向けた仕上げの最終年度となりますが、「東村山市公立保育所民間移管ガイドライン」に基づき、必要な取り組みを着実に推進していきます。

第5次地域福祉計画の策定

平成30年度から6年間を期間とする本計画は、総合計画を上位計画とし、市が進むべき地域福祉分野の施策の方向性を示したものです。

平成29年4月以降、保健福祉協議会や個別計画推進部会などの協力を得て取り組んできた部門別計画を含む策定作業も、3月末の計画完成に向け最終段階を迎えています。

少子高齢化や地域のつながりの希薄化が進む中、多くの課題を解決するためには、既存の福祉活動の枠を超え、行政機関と住民一人一人が地域の課題をとらえ活動しながら解決することが必要となります。今後は、本計画に基づき、地域福祉施策の推進に努めたいと考えています。

障害福祉に関する市単独事業再構築検討会からの提言書
本検討会は、「市単独事業」の制度を根本から見直し、障害福祉の増進に資する制度として再構築を図るため、平成24年11月の発足以来、長年にわたり障害者手当・難病患者福祉手当の給付制度およびガソリン・タクシー費補助制度について、協議を重ねていただきました。

この会議において、「東村山市における障害福祉に関する市単独事業の再構築に向けて」と題した提言書を委員長からいただき、現在、提言書の趣旨を踏まえつつ、具体的な制度の再設計に向けた検討を進めています。5年という長きにわたり議論いただいた委員の皆さまに、この場をお借りして感謝申し上げます。

高齢者施策

平成30年度からの3年間を計画期間とする第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を「地域包括ケア推進計画」と呼称することとし、計画の基本的な考え方や具体的な取り組みなどを、地域包括ケア推進協議会で議論しながら策定作業を進めてきました。

第6期計画の実績としては、介護予防・日常生活支援総合事業を開始し、介護予防を通じた地域づくりや、認知症、在宅療養に対する相談体制の整備を行いました。第7期計画も引き続き地域支援事業の

充実や介護給付の適正化に努め、被保険者の自立支援・重度化防止に努めます。

東村山ナーシングホームの民設民営施設への転換に伴う指定介護老人福祉施設整備

東村山ナーシングホームの運営形態の転換に伴い、東京都による指定介護老人福祉施設の整備を東村山キャンパス内に進めてきましたが、第1期整備として、平成30年3月に社会福祉法人三篠会により、「特別養護老人ホーム」161床が開設します。本整備につきましては、地元の意向や市の方針が十分反映されるよう協議してきたところであり、地域のかたの集会所となる「地域交流スペース」も併設されることから、開設後も地域の機能していくものと期待して

地域密着型サービス施設の整備

現在、第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に基づき、「地域密着型サービス」の整備を推進していますが、3月には、社会福祉法人長寿村により「認知症高齢者グループホーム」と、訪問介護、通所介護、ショートステイ、訪問看護を組み合わせたサービスである「看護小規模多機能型居宅介護」、さらには、居宅介護支援と地域交流スペースを併設する「東村山翔裕園」が久米川町に開設されます。

本サービスは、地域包括ケアシステムの構築のための重要な役割を果たすものであり、日常生活圏域での介護サービスの充実が図れるものと考えています。

徘徊・行方不明高齢者の捜索等に係る情報メール配信事業

事前に登録をしていた市民のかたに対して、行方

不明となった高齢者の発見に資する情報をメールで配信することで、早期発見による当該高齢者の安全確保と、ご家族への支援を図るものです。

本事業は、地域包括ケアシステム構築の一環であり、市民の皆さまの協力が不可欠な事業となります。

姉妹都市提携40周年記念事業

昭和53年1月に姉妹都市締結を行い、今年、40年の佳節を迎えました。この間、東村山市国際友好協会、インディペンデンス市日本姉妹都市委員会の市民レベルでの地道な活動に支えられ、両市民の変わらぬ強い絆により、友好関係が育まれ、相互訪問者はすでに1千人を超えました。今年度は広く市民親善訪問団を募り、これからも両市の親善交流を深め、友好の輪を広げていきます。

第2次多文化共生推進プラン

平成25年度に策定した「東村山市多文化共生推進プラン」の計画期間終了により、第2次多文化共生推進プランを策定しました。

外国人市民が年々増加する中、誰もが地域社会のパートナーとして互いに支え合い、参加、活躍できるまちづくりを目指します。

基本目標2「みんなが楽しく学び、豊かな心を育むまち」

東村山市立小・中学校の教員の働き方改革
社会全体で働き方改革が求められている中で、教員の長時間労働の実態が問題となっています。

市では平成30年度に「学校事務の共同実施」部活動指導員の配置「学校マネジメント強化モデル事業の実施」「コミュニティ・スクールの開設に向けた準備」の4つを複合

的に行うことで、業務の効率化を図り、教員が児童・生徒に向き合える時間や、教材を研究開発する時間を確保したいと考えています。

富士見文化センター改修工事

開館から26年が経過し、雨漏りの発生や空調設備の不具合が顕著になってきたことからサウンディング調査を実施し、民間事業者から効果的な工事手法などに関するご意見をいただきました。

今後はこのご意見をもとに提案募集要領を整え、プロポーザルの準備を進め、安全面に充分配慮し平成30年度内の工事完了を目指します。

東村山市スポーツに関する市民意識調査

平成29年9月から10月に、18歳以上の2千名の市民の皆さまを対象に調査を行い、88通、43・4%という多くのご意見をいただくことができました。

この調査結果をもとに、市民スポーツに対する意識やニーズのほか、スポーツの実施状況を把握するなど、今後のスポーツ施策全般における方向性を定める指針を、スポーツ推進審議会に諮りながら策定したいと考えています。

基本目標3「みんなで作る安全・安心とつながるおいを実感できるまち」

北山公園保全推進事業
トウキョウウダルマガエルなどの希少生物の保全などを目的にイベント等を実施し、多くのかたに北山公園の自然環境や希少生物の保全への理解を深めていただきました。

平成30年度は、北山公園のしょうちゃん池のかいほり作業を通じ、新たな関わりをさらに発展させ、魅力ある北山

続きは5面